

ホームヘルパーの余暇・レクリエーションに関する研究  
～ホームヘルパー養成講習受講者との比較から～

山本 存（甲南女子大学）

### 1. はじめに

1994年の新ゴールドプランにおいて、ホームヘルパーの確保を17万人に、1999年のゴールドプラン21では、さらに2004年度までに35万人へという目標が掲げられた。また、2号被保険者を含む居宅介護サービス受給者は、要介護度が低いほどサービス利用者は増加している傾向にあり（厚生労働省 介護事業報告 2003.）、居宅サービス受給者約201万人の半数以上を要支援（約31.7万人）と要介護1（約74.0万人）で占めていることになる。

こうした状況のなか、ホームヘルパーは社会的な要請にともない、大量に養成され社会福祉の現場に送り出されている。しかし、短期研修・大量養成にはその資質をいかに確保していくかという課題にもぶつかり、労働条件の改善が必要であるとか就業の定着率が低いなどという新たな課題も指摘されるようになってきた。

ホームヘルパーの現況については、就業実態の調査は見られるもののレクリエーションの視点からみた調査はみられない。

そこで、本研究ではホームヘルパーの余暇・レクリエーションの現状を、ホームヘルパー養成講習者との比較を通して明らかにしていきたい。

### 2. 研究方法

分析するデータの収集を目的として、質問紙調査を実施した。調査は、ホームヘルパーとして就業している者とホームヘルパー養成講習を受講している者とを対象にして2000年2月～2003年7月に行った。なお、ホームヘルパーについては、阪神間のヘルパーステーションの業務会議等の場において質問紙調査を依頼し、ホームヘルパー2級養成講習受講者に対してはレクリエーション体験学習（科目）において90分程度の社会福祉分野におけるレクリエーションの考え方や実践の現状を概説した後に実施した。調査方法は、質問紙法・自記式による集合配布・留置・集合回収で実施した。

調査項目は、ホームヘルパー養成講習者に対しては、研修会参加の目的、余暇の考え方や実施状況などであり、ホームヘルパーについては、それに加えてヘルパー業務や就業してからの余暇生活実態などである。

有効回答率は、82.5%（457/554）であった。

### 3. 結果の概要

ホームヘルパーにおいては、回収された質問紙すべてが女性であったため、ホームヘルパー養成講習受講者は女性が回答したものを対象として比較した。年齢別の分布は表1のとおりである。また、ヘルパー講習の目的やホームヘルパーとしての意識やその生かし方、余暇の状況などについては表2に示した（5件法：数字が低いほど肯定的傾向を表す）。

「ボランティアをしたい」、「家族のために役立てたい」、「仲間をつくりたい」、「余暇を充実させたい」という講習目的の意識が、就業により低下する傾向がみられた。また、ホームヘルパーの仕事のやりがいは高い結果となった。

表1 年齢別

|       | 10歳代 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 計   |
|-------|------|------|------|------|------|------|-----|
| 講習群   | 1    | 53   | 57   | 109  | 112  | 7    | 339 |
| ヘルパー群 | 1    | 19   | 18   | 41   | 30   | 9    | 118 |
|       | 2    | 72   |      | 150  | 142  | 16   | 457 |

表2 余暇の状況等

|               | ホームヘルパー | 講習受講者 | p 値   | 検定  |
|---------------|---------|-------|-------|-----|
| ボランティアをする     | 3.941   | 2.719 | 0.000 | *** |
| 家族のためにする      | 3.178   | 1.791 | 0.000 | *** |
| 仲間をつくる        | 3.254   | 2.381 | 0.000 | *** |
| 余暇を充実させる      | 2.915   | 2.284 | 0.000 | *** |
| 社会貢献する        | 2.183   | 1.953 | 0.004 | **  |
| 生涯学習をする       | 2.093   | 1.976 | 0.114 |     |
| 自分を試したい       | 2.144   | 2.130 | 0.444 |     |
| 自分を高めたい       | 1.720   | 1.758 | 0.341 |     |
| 仕事にやりがいがある    | 2.008   | 2.499 | 0.000 | *** |
| 余暇を楽しんでいる     | 2.390   | 2.401 | 0.105 |     |
| 余暇を楽しむ仲間がいる   | 2.110   | 2.142 | 0.390 |     |
| 余暇の過ごし方がわからない | 4.267   | 3.964 | 0.004 | **  |
| 余暇はテレビで過ごす    | 4.102   | 3.782 | 0.003 | **  |
| 余暇は積極的に活動する   | 2.513   | 2.559 | 0.341 |     |
| 休日は身体を動かす     | 2.788   | 2.770 | 0.435 |     |
| 休日はゆっくり休養する   | 2.720   | 2.826 | 0.163 |     |
| 余暇にはお金がかかる    | 2.983   | 3.618 | 0.004 | **  |

その他、ホームヘルパーにおいては、ヘルパーを始めてからの自己の変化について、「生きがいが見つかった」、「自信がもてるようになった」、「仕事に充実感を感じるようになった」、「自分の時間を大切にするようになった」、「家族の理解が得られた」、「何ごとにも積極的になった」、「余暇を有効利用するようになった」、「相談できる仲間が増えた」と認識をしている結果も示された。

ホームヘルパー養成講習者については、ホームヘルパーへの就業希望が強い者とそうでない者との比較検討も加えた。「仲間をつくりたい」、「社会の役に立ちたい」、「自分を試したい」、「自分を高めたい」、「仕事にやりがいを感じたい」、「余暇を楽しむ仲間がいる」、「平日の余暇は積極的に活動する」において、就業希望の強い者に肯定的な回答がなされた。

在宅サービスの利用者にとって、レクリエーションの援助も期待できるホームヘルパーの余暇活動の状況を知るとは、ホームヘルパー養成講習科目「レクリエーション体験学習」の内容を検討するうえでも多くの示唆を与えてくれるものと考えられる。

発表当日は、資料を補足して詳細な報告を行う。